

平成27年9月関東・東北豪雨災害対応報告

業務名：H27鬼怒川上流部樹木・倒伏調査及び河床材料調査業務

発注担当事務所：国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所

平成27年9月関東・東北豪雨により、鬼怒川では7箇所で溢水、常総市では堤防が決壊し、甚大な被害が発生した。東日本支社では、関東地方整備局からの要請にもとづき、災害復旧並びに直轄河川激甚災害特別緊急事業に係わる資料作成並びに詳細設計、地質調査を行い、被災地の一日も早い復興の一助となるよう尽力を注いだ。

1. 鬼怒川の被災状況

関東地方では、台風第18号によって刺激された秋雨前線により降り始めた降雨に加え、その後に台風から変わった温帯低気圧と台風第17号の双方から暖かく湿った風が吹き込み、「線状降水帯」と呼ばれる積乱雲が帯状に次々と発生する状況を招き、長時間にわたって強い雨が降り続いた。鬼怒川では、五十里（いかり）雨量観測所（栃木県日光市）において、3日雨量617mmを記録したほか、各観測所で既往最多雨量を記録し、全川にわたり急激に水位が上昇、水海道水位観測所（茨城県常総市）では、10日11時から16時の5時間にわたり計画高水位を超過し、観測記録史上第一位の水位を記録した。この出水により、鬼怒川左岸21.0k付近（茨城県常総市三坂町地先）の堤防決壊のほか、溢水や漏水等が発生、氾濫により多くの家屋浸水被害等が発生するとともに、避難の遅れによる多数の孤立者が発生するなど、甚大な被害となった。

2. 東日本支社の対応

1) 樹木・倒伏調査

鬼怒川の58.0k～101.5k区間において、洪水後の樹木の倒木・流失状況等を把握することで、洪水外力の実態解明、今後の河道管理上の基礎データに資するため、航空写真判読と現地調査を行った。

2) 河床材料調査

平成27年9月関東・東北豪雨が河道に与えた事象を把握し、河道計画検討のための基礎資料を得るため、調査箇所の選定と現地調査を行った。

3) 河川構造物設計

被災箇所における災害復旧のため、工事実施可能な詳細設計（漏水対策詳細8箇所、護岸詳細7箇所）を行った。

4) 地質調査

土地改良工の施工に先立ち、混合母材および混合土の土質性状を把握するため、室内土質試験を実施した。

3. 現在の復旧状況

令和3年1月末時点においては、弊社で復旧設計を行った箇所については工事が全て完成しており、復興が確実に行われたことが伺える。

